

CINEMA ENCOUNTER SPACE VOL.20

吉田喜重

Yoshida Yoshishige

2006年3月21日[火祝] — 31日[金][27日休映]

京都造形芸術大学 京都芸術劇場 春秋座
芸術文化情報センター 映像ホール

文化庁日本映画上映支援事業 / CINEMA ENCOUNTER SPACE開催20回記念企画

主催—京都造形芸術大学 映像・舞台芸術学科、CINEMA ENCOUNTER SPACE

作品提供—現代映画社、(株)日経映像、(株)松竹、(株)日活、ATG、(財)ポラ伝統文化振興財団

中岡慎太郎館、NHKマルチメディア局、東京MXテレビ、東京大学、愛知県、青山真治

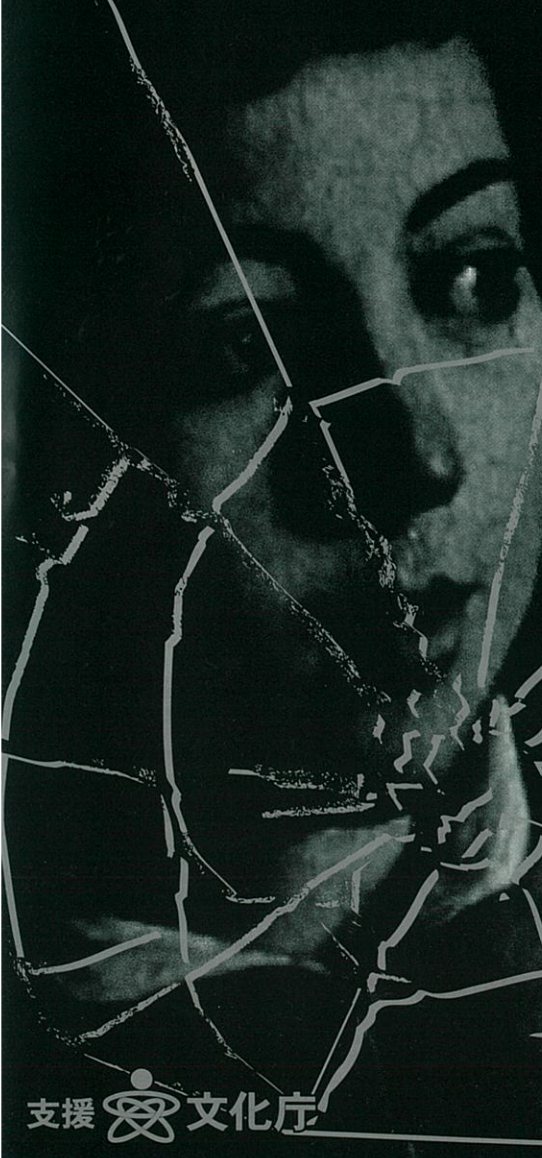
プラネット映画資料図書館、読売映像

協力—吉田喜重、越後卓司、蓮實重彦、マチユー・カペル、RCS (敬称略)

反=映画史

はじまりの映画、おわりの映画

Beginning of Cinema, End of Cinema





吉田喜重 反=映画史 —はじまりの映画、おわりの映画—
Beginning of Cinema, End of Cinema

映画に誕生の時があったとすれば、死の時も必ず訪れる。しかし、吉田喜重は「映画の運命」を反転させ、あまたの映画の前提になっているだろう「本当らしさ」「見る⇔見られる」の迷宮的な魔力の構造を見いだす稼働させた。スティックなまでに一貫したモチベジャンル、場所を過激に移動し続けるこの類まれ自身が「見返す」時が来た。開催20回目を迎えるCINEMA ENCOUNTER規模と構成で展開する。吉田喜重の装置である「反映画」が立ち現れているはずだ。それは、黙示のうちに繰り広げら



映画にも運命があるということ、我々も覚悟しなければならぬ。映画を限りない可能性の地平へと導く。を向こうにまわし、映画が本源的にはらんでいる時、映画作家・吉田喜重は「反映画」という装置—シヨンの作品を時代に刻むと同時に、題材、な作家が歩んだ40数年の軌跡を、いまこそ我々自身SPACEは、この吉田喜重の映画世界を、かつてないとの膠着を堪え抜いた時、我々の前には未知の時空間れる、始まりと終わりの無限宇宙である。

吉田喜重 (よしだ・よししげ) = 映画監督。1933年福井市生まれ。1955年東京大学文学部フランス文学科を卒業、松竹大船撮影所に入社。「松竹ヌーヴェルヴァーグ」の渦中で、1960年に処女作『ろくでなし』を世に放つも、1964年、『日本脱出』の非完全な公開を契機に松竹を離れる。同年、岡田茉莉子と結婚。以後、独立プロ体制で『エロス+虐殺』(69)などを発表。1973年『戒厳令』完成。TV番組『美の美』(74-77)の制作に着手。以後、ドキュメンタリーも多数手がける。メキシコ滞在、リヨン・オペラ座での『マダム・バタフライ』演出、新作『安倍清明』執筆など、多岐にわたる活動を展開。2003年、『鏡の女たち』を発表、フランス政府「芸術文芸 オフィシエ賞」受賞。2004年よりレトロスペクティブ「吉田喜重変貌の倫理」が各地で開催。2005年、イタリア5都市での特集巡回を果たす。『見ることのアナーキズム』、『小津安二郎の反映画』など、著書や批評も多数ある。

スケジュール *schedule*

第1部 ▶ 3月22日—26日 ◎25日のみ春秋座開催
会場 = 京都造形芸術大学 芸術文化情報センター 映像ホール

▶ 3月21日【火・祝】 ●映像ホール

- 11:30 『BIG-1物語 王貞治』
- 13:10 『三宅藤九郎』+『愛知の民俗芸能』2作品
- 15:00 『夢のシネマ 東京の夢』

◆トーク (70分)

「見ることの無方位、見ることのアナーキズム」
田中千世子 × **小林昌廣**
(映画評論家・ドキュメンタリー作家) (京都造形芸術大学教授・美術評論家)

- 17:40 『美の美』—ルネサンス
- 19:30 『美の美』—ゴッパ
- 20:50 終了

▶ 3月22日【水】 ●映像ホール

- 13:30 『美の美』—ゴッパ
- 15:20 『美の美』—ボッシュ
- 16:50 『三宅藤九郎』+『愛知の民俗芸能』2作品
- 18:40 『砂漠のシモン』+『糧なき土地』
- 20:00 終了

▶ 3月23日【木】 ●映像ホール

- 12:20 『美の美』—マネ/セザンヌ
- 14:10 『美の美』—カラバツジョ/ブリュゲル
- 16:10 『すでに老いた彼女〜』
- 17:20 『BIG-1物語 王貞治』
- 19:00 『吉田喜重が語る 小津さんの映画』

◆トーク (30分)

「空白から余白へ 反復とずれの転生」
八角聡仁 × **石田美紀**
(京都造形芸術大学教授・批評家) (日本芸術振興会特別研究員・映画文化史)

- 20:30 終了

▶ 3月24日【金】 ●映像ホール

- 11:30 『美の美』—ルネサンス
- 13:30 『美の美』—ゴッパ
- 15:20 『夢のシネマ 東京の夢』
- 16:30 『美の美』—カラバツジョ/ブリュゲル

◆トーク (30分)

「『美の美』の美」 **岡田温司** (京大大学教授・西洋美術史)

- 18:50 『美の美』—ゴッパ
- 20:10 終了

▶ 3月25日【土】 ◎春秋座にて開催

- 11:40 『嵐を呼ぶ十八人』
- 14:00 『水で書かれた物語』

上映作品 *programs*

嵐を呼ぶ十八人

1963/松竹/35mm/108分 ●ニュープリント
◎脚本: 吉田喜重 ◎撮影: 成島東一郎
◎音楽: 林光
◎出演: 早川保/香山美子/根岸明美/芦屋雁之助



労働者と呼ばれる以前の、ただ労働を提供する「もの」にすぎない社外工。彼等がそれを「アクション・メタフィジック」と名づけた。苛酷な肉体の動きとリズムとが、人間の内面を空洞化する。それと同様にラストの東京オリンピックもまた、日本を空洞化する。(吉田喜重)

日本脱出

1964/松竹/35mm/96分 ●ニュープリント
◎脚本: 吉田喜重 ◎撮影: 成島東一郎
◎音楽: 武満徹/八木正生
◎出演: 鈴木やすし/桑野みゆき/待田京介



アクションだけを純粋に追求することによって、思わぬ異次元へと飛躍する。私はそれを「アクション・メタフィジック」と名づけた。苛酷な肉体の動きとリズムとが、人間の内面を空洞化する。それと同様にラストの東京オリンピックもまた、日本を空洞化する。(吉田喜重)

水で書かれた物語

1965/中日映画社/35mm/122分
◎原作: 石坂洋次郎 ◎脚本: 石堂淑朗/高良留美子/吉田喜重 ◎撮影: 鈴木達夫 ◎音楽: 一柳慧
◎出演: 岡田茉莉子/浅丘ルリ子/入川保則/山形勲



母子相姦をモチーフにしていながら、母その人ではなく、母性的なものとの相姦関係が問われている。父的な支配に逆らうようにして、母と子とを結ぶ、抑圧された内密の絆。その危うさこそが、父、国家、天皇という関係の、いかかわしさを見返すための母胎となる。(吉田喜重)

戒厳令 ●ニュープリント

1973/現代映画社・ATG/35mm/110分
◎製作: 岡田茉莉子/上野昂志/葛井欣士郎
◎脚本: 別役実 ◎撮影: 長谷川元吉 ◎音楽: 一柳慧
◎出演: 三國連太郎/松村康史/三宅康夫/倉野章子



二・二六事件と北一輝を扱った作品である。権力という視点に立てば、右翼と左翼、社会主義革命と天皇制は、ともに通底合っており、パラレルなものではない。この作品と『エロス+虐殺』『煉獄エロイカ』の三作品により、私のなかの同時代史を完成させた。(吉田喜重)

鏡の女たち

2003/グルーヴコーポレーション・現代映画社・ルートビグチャーズ・グルーヴキネマ東京/35mm/129分
◎脚本: 吉田喜重 ◎撮影: 中場正夫 ◎音楽: 原田敬子
◎出演: 岡田茉莉子/田中好子/一色紗英



原爆をテーマに三世代の女性が、みずからのアイデンティティを問いかける。それに誰も答えることができないのは、それこそが原爆の理不尽さにはかならない。いかに映画のなかで語っても、語り尽くせない謎が残るのも、原爆が終わりなき対話であるからである。(吉田喜重)

BIG-1物語 王貞治

1977/読売映画社・読売巨人軍/35mm→16mm/86分



王貞治選手がホームランの世界新記録を達成した瞬間を、おびたしい人が目撃したはずである。しかしここに来るまでの、彼自身の苦難の歴史を思えば、あの756号のホームランを見る権利は、誰にもなかっただろう。あれは見てはならない、幻のホームランであった。(吉田喜重)

狂言師・三宅藤九郎

1984/35mm→16mm/32分



人間国宝・九世三宅藤九郎の姿をとらえながら、遙かな中世に注がれるまなざしによって、「俗なる物真似から出て、聖なる道化ぶりを演じる」狂言世界の深部へと到る。

幕末に生きる 中岡慎太郎

1987/35mm/57分



京都・近江屋で討たれるまで歴史の裏舞台で暗躍を続けた幕末の志士の生涯が、吉田独自の映像表現により、わずかに揺らめきはじめる。そして、幽玄の時間を引き裂き、「歴史」が現在と

愛知の民俗芸能

—聖なる祭り 芸能する心—
1992年/ビデオ/31分



奥三河地方。その農民主体の聖なる宗教儀式的な、民俗芸能のふるさと、その誕生の原風景をもとめるイメージの旅。それは「火」と「水」の陶酔で白眉を迎える。

「反=映画史・1 フィクション篇」吉田 喜重

17:40 『鏡の女たち』
20:00 『幕末に生きる 中岡慎太郎』
21:00 終了

▶3月26日【日】 ●映像ホール
12:00 『東京大学 学問の過去・現在・未来』
13:20 『夢のシネマ 東京の夢』

◆トーク (70分)

「反=映画史・2ドキュメンタリ篇」吉田 喜重

17:40 『美の美』—マネ/セザンヌ
19:40 『美の美』—ボッシュ
21:00 終了

第2部▶3月28日—31日

会場=京都造形芸術大学 京都芸術劇場 春秋座

▶3月28日【火】 ●春秋座
13:30 『美の美』—ゴッホ
15:30 『美の美』—ゴヤ
17:00 『水で書かれた物語』
19:20 『戒厳令』
21:10 終了

▶3月29日【水】 ●春秋座
13:30 『美の美』—ルネサンス
15:30 『美の美』—カラヴァッジョ/ブリューゲル
17:30 『日本脱出』
19:20 『嵐を呼ぶ十八人』
21:10 終了

▶3月30日【木】 ●春秋座
14:00 『東京大学 学問の過去・現在・未来』
15:10 『すでに老いた彼女〜』
16:20 『美の美』—マネ/セザンヌ
18:20 『幕末に生きる 中岡慎太郎』
19:30 『日本脱出』
21:10 終了

▶3月31日【金】 ●春秋座
12:50 『吉田喜重が語る 小津さんの映画』
14:00 『美の美』—ボッシュ
15:40 『戒厳令』
17:50 『夢のシネマ 東京の夢』
19:00 『鏡の女たち』
21:10 終了

アクセスマップ access map

- 映像ホール (京都造形芸術大学内 人間館B1階)
- 春秋座 (京都造形芸術大学内 人間館1階)



お問い合わせ先 CINEMA ENCOUNTER SPACE事務局

TEL&FAX: 075-451-0056

HANDY: 090-1918-1881 E-mail: en_space@hotmail.com

☆開催中、チケットを購入された方にCINEMA ENCOUNTER SPACE開催20周年を記念し、各界有志の皆さんによる吉田喜重作品論の寄稿や、CINEMA ENCOUNTER SPACEのこれまでの軌跡のご紹介などの激しい内容からのパンフレットをプレゼント、ご期待ください。さらに、このパンフレットを携帯していれば、『東京大学』、『小津さんの映画』、『三宅廉九郎』+『愛知の民俗芸能』2作の3プロをご鑑賞いただけます。ぜひご利用ください。

愛知の民俗芸能

—都市の祭り 芸能する遊び—
1993/ビデオ/29分



愛知作品第2弾。尾張部の町衆を主体とした都市の祭り。「津島天王祭り」の提灯がみせる宇宙のイメージ、「有松の山車からくり」のからくり人形の玄妙が、見慣れた現代都市の相貌を異化する。

吉田喜重が語る小津さんの映画

1994/ビデオ/59分



松竹在籍時に小津と邂逅し、運命的な別れを体験した吉田喜重。見出された断絶と継承の相生。ここで開示される小津映画の「反復とずれ」のテーマは、何より吉田作品に色濃く転生しているはずだ。それは「反映画」という昇華を遂げる。

夢のシネマ 東京の夢

明治の日本を映像に記録したエトランジュ ガブリエル・ヴェール
1995/ビデオ/52分



リュミエール社の技師・ヴェールを媒介にして、映画そのものが根源から見返される。「映画はみずからの中に死に至る病を隠し持つ、呪われたメディアだった—」サスペンスフルに展開するこの衝撃のエッセンスは、『鏡の女たち』で見事に転生する。

知の解放 知の冒険 知の祝祭 東京大学 学問の過去・現在・未来

1997/ビデオ/59分



蓮實重彦・東大総長就任の際に制作された大学PRでありながら、夏目漱石「三四郎」のドラマが現代の大学空間と複雑に交錯する。様々な映画的手法と題材の関心がちりばめられ、やがて草原を歩く日傘の女の謎めいた微笑みが、観る者を奇妙なぬくもりの世界に誘う。



美の美 1974-77年/16mm→DVD各24分 *ヨーロッパ美術篇より22本(6プログラム)

TV番組史上の傑作としていまお語り継がれる『美の美』シリーズの厳選セレクション。フィレンツェ・ルネサンスからゴッホ、セザンヌ、カラヴァッジョなど、各時代の美術家を取り上げるヨーロッパ美術篇。吉田喜重が単身現地へとび、「美」の奥にある巨大な人類の「歴史」と対峙する。ただの美術番組と思うとやけどは必至。ご注意ください。

■フィレンツェ・ルネサンス—Renaissance, Firenze 計100分
□ルネサンスへの旅立ち フランジェリコ、その天上の美
□ルネサンスの人間とは ミケランジェロ・メディチ家礼拝堂は語る
□ルネサンス恐怖時代 ボッティチェリ、その神秘主義
□幻のフィレンツェ共和国 画家にとって祖国とは

■ヴァン・ゴッホ—Vincent Willem van Gogh 計100分
□伝道者ヴァン・ゴッホ 画家は何故画家になるのか
□故郷喪失者ヴァン・ゴッホ 画家は色と光に舞う
□自虐の人ヴァン・ゴッホ 画家は耳を失う
□ヴァン・ゴッホの自殺 画家はついに故郷に帰れず

■ゴヤ—Francisco de Goya 計75分
□スペインの魔術師ゴヤⅠ 不吉な宮廷画家の出現
□スペインの魔術師ゴヤⅡ 近代の無秩序は彼と共に始まる
□スペインの魔術師ゴヤⅢ 理性の眠りは怪物を生む

■ボッシュ—Hieronymus Bosch 計75分
□幻視の画家ボッシュⅠ 異端の北方ルネサンス
□幻視の画家ボッシュⅡ 地獄への下降
□幻視の画家ボッシュⅢ 千年王国への夢

■マネ—Edouard Manet 計50分
□聖なるスキャンダル画家 マネⅠ オランピアの露出感について
□聖なるスキャンダル画家 マネⅡ 一個の落日、ダンディズム

■セザンヌ—Paul Cezanne 計50分
□セザンヌ その孤独なまなざしⅠ 青春よりはるか遠くにおいて
□セザンヌ その孤独なまなざしⅡ 南仏に一刻の夕立

■ブリューゲル—Pieter Brueghel 計50分
□ブリューゲル 画家が亡国を目撃するときⅠ 集団への遠近法
□ブリューゲル 画家が亡国を目撃するときⅡ 美しい風景を犯すもの

■カラヴァッジョ—Michelangelo Merisi Da Caravaggio 計50分
□画家 カラヴァッジョの犯罪Ⅰ 殺人の果ての写実性
□カラヴァッジョの犯罪Ⅱ シチリア・マルタ島への逃避行

上映作品 Cinema Encounter Space フィーチャーズ programs

吉田作品をより過激に体験するために、CESはこの2作家の仕事をも選べる。それぞれの時代と場所に位置するこれらを交錯させ、昇華しうるのは、作家同士ではなく、他ならぬスクリーンの前の観客である。映画は観客が見ることによってはじめて息づく。「見ることのアナーキズム」を発動しよう。

ルイス・ブニュエル 聖なるブルート

『糧なき土地』 ●監督:ルイス・ブニュエル 1932/35mm→16mm/29分
『砂漠のシモン』 ●監督:ルイス・ブニュエル 1965/35mm→16mm/43分
シュールレアリスム運動の亀裂から出現した映画史上最大のスキャンダリスト、ブニュエル。その初期ドキュメンタリー(フェイク)とメキシコ時代の中編フィクションを併映。「聖なるブルート」が画面に映す世界は、この現実を嘲笑し続ける。

青山真治 歴史への意思

『すでに老いた彼女のすべてについては語るために』 ●監督:青山真治 2001/DV/51分
コラージュ的な手法で、夏目漱石、中野重治のテキストを解体し、大逆事件の読み替え+「愛知の民俗芸能」2作の3プロは、パンフレット携帯の方はもちろんご鑑賞いただけます。

チケット チケットにもれなくCESパンフレットがついてくる! (お一人様1部) ticket

D1回券..... 当日800円/予約600円

D5回券..... 予約のみ2400円

対象:『夢のシネマ』『幕末に生きる』『美の美』6プロ、CESフィーチャー2プロ

F1回券..... 当日1000円/予約800円

F5回券..... 予約のみ3500円

対象:『日本脱出』『嵐を呼ぶ十八人』『水で書かれた物語』『戒厳令』『鏡の女たち』『BIG-1物語』

フリーパス(限定10部)..... 予約のみ8000円

対象:会期中全プログラム

●すべてのトークイベントは、チケット半券をお持ちの方はご入場いただけます。

●『東京大学』、『小津さんの映画』、『三宅廉九郎』+『愛知の民俗芸能』2作の3プロは、パンフレット携帯の方はもちろんご鑑賞いただけます。

■予約割引...当日来場以前に電話、FAX、e-mailいずれかで予約による割引。お名前、ご連絡先、チケットの種類をご明示ください。ご来場の際の精算です。

■当日割引...25歳以下、60歳以上、障害をお持ちの方とその介護者1名(※要証明)は、当日チケットを予約割引料金にてお求めいただけます。

■高校生以下は、当日料金の半額にてご入場いただけます(1回券のみ)